

TZ

LEXUS、新型「TZ」を世界初公開

— 「Driving Lounge」をコンセプトに、すべての乗員が笑顔になれる LEXUS 初の BEV3 列シート SUV モデル —

- 多彩なライフスタイルを提案する新型 BEV3 列シート SUV モデル
- LEXUS 特有の静粛性と乗り心地や開放的なキャビンにより自然体で過ごせるラウンジ空間
- クルマの大きさを感じさせない、ドライバーと一体感のある走り
- SUV らしい力強いスタイリングと空力性能の二律双生を追求したデザイン
- 竹やリサイクル素材などを取り入れたサステナブルな材料の内外装への活用



LEXUS TZ（プロトタイプ）

LEXUS は、新型 TZ を世界初公開しました。日本での発売は、2026 年冬頃を予定しています。

LEXUS は、1989 年の創業以来、常にイノベーションの精神を貫き、お客様に新たな技術や価値を提供することに挑戦し続けてまいりました。Japan Mobility Show 2025 では、複数のコンセプトモデルとともに「DISCOVER」—誰の真似もしない—というブランドメッセージを掲げ、お客様一人ひとりにとって唯一無二の体験価値を提供できるブランドとしてさらに変革することを宣言しました。今後 LEXUS は各商品に「DISCOVER」という言葉に続く固有のテーマを付与し、体験価値を定義してまいります。今回発表する TZ は、ライフスタイルやライフステージへのあらゆる可能性の広がりをイメージし、「DISCOVER LIMITLESS」というテーマを設定。TZ が日常のルーティンから人々を解放し、新しい体験や冒険を可能にするという願いを込めています。

TZ は、この“DISCOVER LIMITLESS”を具現化するモデルとして、すべての乗員が笑顔になれる上質な移動空間「Driving Lounge」をコンセプトに、快適に過ごせる空間と、LEXUSらしい走りを高次元で融合した新型 BEV3 列シート SUV モデルです。運転する楽しさ（=Driving）と、どの席でもくつろげる居心地の良さ（=Lounge）を両立することで、何よりも「時間」を大切にされるお客様に新たな体験価値をご提供します。専用開発したプラットフォームやシンプルで開放的なキャビンにより、どの席でも乗員がリラックスできる広々とした室内空間を実現しています。また、LEXUS ならではの静粛性にさらに磨きをかけるとともに、運動性能を徹底追求。BEV の特性を活かした上質な乗り心地と運転する楽しさの両立を目指しました。デザインでは、造形美と空力性能の二律双生を徹底的に追求。SUV の力強いスタイルを保ちながら、LEXUS の SUV モデルトップレベル*1の空力性能を実現し、優れた航続距離を確保しています。さらに、オーナメント加飾には四国の竹材を用いた「Forged bamboo」を採用し、サステナブルなクルマ作りと伝統技術の継承にも寄与しています。LEXUS は TZ を通じて、大切な人との時間をより深く、より豊かに彩る空間と、運転する人の心を揺さぶる体験をご提供してまいります。

<TZ の主な特長>

① すべての乗員に、心からくつろげるラウンジ空間をご提供

- ・ Driving Lounge の実現を目指し、家族の会話や笑顔が自然に生まれる空間を創造
- ・ 新開発プラットフォームや大開口薄型可動パノラマルーフの採用による開放感あふれるパッケージ
- ・ 自然な音の空間を実現するため、音の指向性に配慮した LEXUS トップレベル*1の静粛性による快適な室内空間
- ・ オーディオシステムやイルミネーションなどにより人の感性を刺激する癒しとくつろぎの空間

② 走る喜びとくつろぎの空間が共存する、LEXUS ならではの移動体験

- ・ LEXUS の「味磨き活動」により、徹底的に鍛え上げた体幹による走りの深化と高い快適性
- ・ クルマの素性にこだわり、意匠性と居住性を高い次元で両立させた空力性能
- ・ ハードとソフトの電動化技術を活かし、後席の快適性を重視した「Rear Comfort」モード*2
- ・ インタラクティブマニュアルドライブ（Interactive Manual Drive）*2による運転の楽しさと高揚感をもたらす、深化したクルマとの対話

③ 造形美と空力性能の二律双生が生む存在感

- ・ シンプルさに先鋭さを融合し、LEXUS らしい独自性と存在感を追求
- ・ スピンドルボディや幾何学グラフィックで機能美を表現しつつ、高い空力性能を実現
- ・ 意匠性と空力性能を両立したホイールを設定し、洗練されたたくましさ表現

④ サステナブルな素材と循環型のクルマ作り

- ・ Forged bamboo やリサイクルアルミなどサステナブルな素材を採用
- ・ 製造工程においても環境負荷を最小限に抑える工夫を取り入れた循環型のクルマ作り

*1 2026 年 5 月現在発表済みの車種において、LEXUS 調べ

*2 地域／仕様によって異なります

TZ はドライバーと家族が笑顔になれる上質な移動空間「Driving Lounge」というコンセプトを掲げ、開発メンバー全員でその姿を問い続けながら開発してきたモデルです。時間を何よりも大切に、本物を知るお客様に選んでいただくという LEXUS が目指すブランド価値を想定し、TZ を通じて LEXUS の新しい体験をお届けしたいと考えています。このような LEXUS が目指す価値観を成し得るにあたり、たどりついた手段が BEV でした。電動化による操る楽しさや走りの進化を実現するには BEV は最適解だと考えています。「見て」、「乗って」、「走って」体験する LEXUS らしさに加え、新しく「過ごして」体験する価値も提供します。

TZ の開発でまずこだわったのは、デザインと空力性能の二律双生です。BEV で重要視される空力性能に加え、拡大するラグジュアリーMid-SUV 市場において唯一無二の個性を発揮するためにはどのようなスタイリングになるべきか。普段は相容れにくい技術とデザインを上手く融合させた、機能美から生まれたデザインが特徴的だと考えています。インテリアにおいても、すべての座席でラウンジのようにくつろげる空間を目指し、新開発のプラットフォーム、シート、パノラマルーフをはじめ、部品一つひとつの細部にまでこだわりました。走りに関しては BEV であるメリットを最大限に活用しつつ、LEXUS の味磨き活動を取り入れ、徹底的に鍛え上げました。止まっても、走っていても何より静かな空間を目指し、静粛性には特にこだわり、音響も楽しむことができるラウンジ空間を作りあげることができました。より長い時間を TZ で過ごしていただけるように、音楽を楽しむなら TZ で、そんな使い方も提案します。

また、環境面でのサステナビリティは当然ですが、“クルマを運転する楽しさ”のサステナビリティも提供したいと思っています。楽しそうに運転する両親の姿に子どもが憧れ、自分もクルマを運転したいという想いが世代間で受け継がれる、そんな役割を担うクルマでもありたいと考えています。運転する方には笑顔で運転してほしい…、そんな願いを TZ には込めております。「Driving Lounge」という新しい提案は、快適な空間と LEXUS の走りを両立させるとともに、乗っている人全員の想いに寄り添います。日々の暮らしに新しい喜びをもたらし、かけがえのない時間をより美しく、より深く輝かせる TZ に、どうぞご期待ください。

【TZ 主要諸元】（プロトタイプ値）

全長	5,100mm	
全幅	1,990mm	
全高	1,705mm	
ホイールベース	3,050mm	
車両重量*1	2,630kg	
タイヤサイズ*1	255/45R22・255/55R20	
最小回転半径	5.4m*2	
駆動方式	AWD	
システム最高出力	300kW [407.8PS] *1*3	
フロントモーター	最高出力	167.0kW [227PS] *1*3
	最大トルク	268.6N・m [27.3kgf・m] *3
リヤモーター	最高出力	167.0kW [227PS] *1*3
	最大トルク	268.6N・m [27.3kgf・m] *1*3
加速 (0-100km/h)	5.4s*1	
バッテリー総電力量*4	95.82kWh *1*3	
AC 充電規格	NACS TYPE1 TYPE2 GB/T*1	
AC 充電最大出力	NACS : 11kW/19kW*1 TYPE2 : 22kW*1	
DC 充電規格	NACS CHAdeMO CCS GB/T*1	
充電時間 (150kW SOC 10-80%)	約 35 分*5	
航続距離	300mile*6 (北米) 620km*7 (日本) 530km*8 (欧州) 640km*9 (中国)	
荷室容量	290L*10 - 2017L*11	
トローイングキャパシティー*1	3500lbs (北米) 1500kg (欧州)	

*1 地域/仕様によって異なります

*2 Dynamic Rear Steering (DRS) 付。DRS 無しの場合は 5.8m

*3 開発中の暫定値

*4 測定方法は IEC62660-1 に準じています。総電力量は、車両に搭載した電池のエネルギー量を表しています、国連危険物輸送勧告の定義に基づき算出した値であり、電圧 (V) と容量 (Ah) 、セル数によって求められます。

*5 駆動用電池温度が約 25°C の場合に、満充電量の約 10% から約 80% まで充電するためのおおよその時間。充電時間はあくまで目安の時間であり、外気温や充電器の仕様などの条件により変わる場合があります。

*6 EPA モードにおける開発中の暫定値：20 インチタイヤ装着時

*7 WLTC モードにおける開発中の暫定値：22 インチタイヤ装着時

*8 WLTP モードにおける開発中の暫定値：20 インチタイヤ装着時

*9 CLTC モードにおける開発中の暫定値：22 インチタイヤ装着時

*10 3 列目シートを起こした状態での VDA 方式による容量

*11 2 列目・3 列目シートを前方に倒した場合の VDA 方式による容量

すべての乗員に、心からくつろげるラウンジ体験をご提供

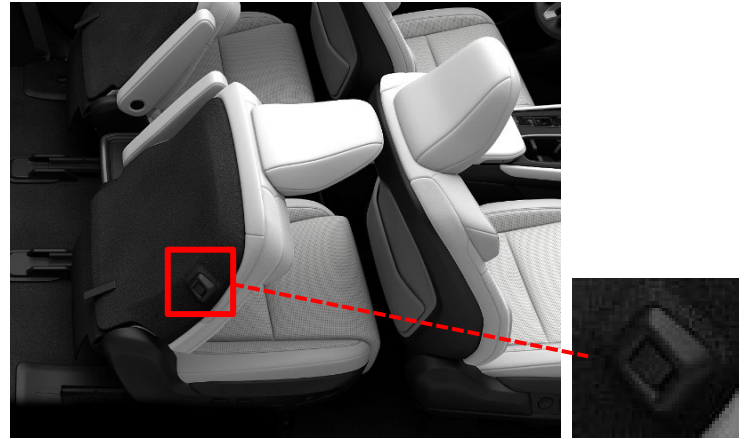
TZ の開発コンセプト Driving Lounge を実現するために、ラウンジ空間としての居住性と快適性を徹底的に追求しました。新開発プラットフォームとサスペンションレイアウトの工夫などにより低床・ロングホイールベースのパッケージで広々とした室内空間を確保するとともに、LEXUSらしい静粛性にも徹底的にこだわっています。また、3列すべてで快適な乗車体験をご提供するためにシート構造やインテリア素材にこだわり抜いたほか、薄型インストルメントパネルや薄型シート、世界最大長*1の可動式パノラマルーフで開放感ある空間としています。さらにオットマンやシートベンチレーションなどの快適装備を充実させています。加えて、光、音、香りなどが連動する「Sensory Concierge（センサリーコンシェルジュ）」*2による人の感性を刺激する演出や、直感的な操作性と美意識を融合した「Responsive Hidden Switches（レスポンスヒドゥンスイッチ）」*2のほか、最新のオーディオシステムが、移動体験をより豊かに彩ります。

<居住性へのこだわりと、身体を預けたくなる空間>

- ・ Driving Lounge を実現するためには、高い静粛性能が不可欠です。エンジンのないBEVでは、相対的にロードノイズや風切り音が目立つ傾向があります。そこで、ボディ骨格とパネルの共振周波数を意図的にずらす共振コントロール、防音材・遮音材の最適配置、骨格内へのゴム系発泡充填材の採用、風切音低減ミラー開発など、多方面から静粛性を追求し、LEXUSのSUVモデルとしてトップレベル*1の高い静粛性を実現しました。また、“人の感受性”に着目した音の指向性にも配慮し、走行時には前方からの音を自然に感じられる一方で、後方からの音は抑えています。それぞれの座席に応じて適切な車室内会話明瞭度（定常AI）の目標値を設定し、かつ局所的に音が大きくなることのない設計により、静かな空間でリラックスして前後席の会話をしやすい環境をご提供します。
- ・ シート開発でも、3列すべてで快適な居住性の実現にこだわりました。フロントシートは分割構造を採用し、立体感と仕上がりの美しさを両立。薄型シートの採用により、すっきりとした室内空間を構成しながらも、座り心地の良さを確保しています。また、助手席とセカンドシートはおもてなしとしてLEXUSのSUVでは初となるオットマンを設定*2。さらに、シートベンチレーションの設定*2により、快適性と利便性を追求しました。サードシートでは、ソファのような座り心地を目指したシート設計に加え、着座位置を最適配置したプラットフォームにより、高い空力性能に寄与する外形としながら、開放感のある側方視界や十分なヘッドクリアランスを確保。大人がゆったり座れる優れた居住性も実現しています。加えて、サードシートへのスムーズかつ快適な乗り降りを実現すべく、設計からパーツの採用まで徹底的にこだわりました。強度を確保しながらアンダーボディを部分的に下げることで、セカンドシートのシートレール締結部を低く配置したほか、セカンドシートバックにウォークインスイッチを設置。スイッチを押すことでシートバックが前方に倒れ、サードシートへスムーズにウォークインすることが可能です。また、セカンドシートにチャイルドシートを設置した状態でも、シートバックを倒さずにサードシートへの乗り込みができるスペースを確保しています。その他にも、足をしっかり乗せることができるスカッフプレートやオープングリップ、サードシートからスムーズに上体を起こせるアームレストの上体起こしグリップなどの設定により、自然で快適な乗降動作をサポートします。



セカンドシート オットマン*2
(プロトタイプ)



セカンドシートバック
ウォークインスイッチ
(プロトタイプ)

・SUV ならではの広々とした荷室空間を確保することにより、利便性の向上を図りました。セカンドシート・サードシートをそれぞれ折りたたむことで、用途に合わせた室内空間を確保できます。サードシートの折りたたみは、リヤドア付近とバックドア付近の2か所にボタンを設置し、ワンタッチでの操作が可能です。



室内空間 サードシート前倒時
(プロトタイプ)



室内空間 セカンド・サードシート前倒時
(プロトタイプ)



室内空間 セカンド・サードシート前倒時
後方寄り (プロトタイプ)



荷室空間 (プロトタイプ)

- ・半ドア状態を感知し、ドアを自動で閉じ切るイージークローザーを装備しました。半ドア時にドアを閉め直す煩わしさを解消するとともに、弱い力で安全にドアを閉めることができます。また、静かに閉まる設計としたことで、車内にいる乗員も安心してお過ごしいただけます。
- ・バックドア開閉の利便性向上のため、ハンズフリーパワーバックドアに電波方式のキックセンサー*²を採用しました。これにより、足を高く上げなくても作動するようにしたほか、斜め方向からのキックにも対応します。車両後方にスペースが少ない場合や、壁や植え込みがある場合でも、よりスムーズかつ安全にバックドアを開閉いただけます。
- ・小さなお子様が発見された車内に置き去りにされた際に、ブザーとハザードで車両周囲に警報を発信する車内置き去り通知システム（Cabin Detection Alert System）*²をLEXUSとして初採用しました。置き去りが発生してしまうケースとしては、静かに寝ているお子様が想定されるため、人が呼吸する際の微小な動きを検出できるセンサーを数多く試作評価し、LEXUSとして初となる60GHzレーダーを使用した検知システムを採用。3列目頭上の電波式センサーにより、幼児がブランケットを被っている状況など、目視で判別できない場合でも検知できるよう設計しています。

<LEXUSらしい空間を演出する車内機能>

- ・大開口薄型可動パノラマルーフは、ワイヤ駆動方式のシェードを採用することで、世界最大長・最大面積*¹のシェード開口を実現。同時に、シェードユニットの厚みを軽減し、十分な室内高を確保したほか、シェードの配置と開口長は、サードシートでもパノラマルーフ越しの視界を楽しめるよう、徹底的にこだわりました。これにより、フロント・セカンドシートはもちろんのこと、サードシートにおいても開放感あふれる室内空間を実現しています。頭上空間を確保しつつ、直射日光や紫外線が厳しい環境下でも車室内を快適に保つことができる空間設計により、後席を含むすべての乗員が快適に過ごせる空間をご提供します。



大開口薄型可動パノラマルーフ（プロトタイプ）

- すべての乗員に自宅のラウンジのようにくつろげる空間をご提供する Sensory Concierge（センサリーコンシェルジュ）*2は、空間と演出で魅了する世界感「パフォーミングアーツ」をコンセプトに、LEXUS 独自の体験価値を追求。イルミネーション、音楽、マルチメディア動画、空調が連動し、その時々のお気持ちに寄り添う3つのモードで、快適とくつろぎの車内空間をご提供します。



Sensory Concierge（センサリーコンシェルジュ）
INSPIRE（インスパイア）（プロトタイプ）

- 音楽とイルミネーションが連携する「音楽連動イルミネーション」*2を導入します。乗員の選ぶ音楽の周波数に合わせて色を、音圧に合わせて輝度を変化させることで、乗員のお気持ちに寄り添う空間をご提供します。
- 乗員へのおもてなしとして、LEXUS のシグネチャーアイテムであるバンブーを要所に取り入れた5つの香り*2をご提供します。各フレグランスに合うオリジナルのマルチメディア動画、音楽、イルミネーションが連動し、視覚や音と一緒に楽しみいただけます。すべての香りに京都の嵯峨野の竹林の空気を落とし込み、唯一無二の香り表現したバンブーアコードを用いたほか、フレグランスを収める専用カートリッジには、樹脂に粉碎した竹繊維を混ぜ込んだ Forged bamboo を採用。カートリッジもバンブーからのインスピレーションでデザインしています。発生器には最大3種類のカートリッジを同時にセットでき、その時々のお気持ちに応じて好みの香りをお楽しみいただけます。
- イルミネーションでは、LED光源の先に配置するレンズの加工や、被照射面の角度設定といった細部に至るまで徹底的にこだわりました。「幽玄」「幻想」「奏」「移ろい」「閃光」「鼓動」の6つの世界観を持つ色相の異なるLED光源を、一定の時間で変化させることで、独自の光の空間を演出します。



イルミネーション（プロトタイプ）

- ・スイッチの設計においても、人の感性に寄り添うことにこだわりました。頭上付近やドアのスイッチには、直感的な操作をしやすいように物理スイッチを採用。一方、ステアリングやインストルメントパネル部には ResponsiveHiddenSwitches（レスポンスヒドゥンスイッチ）*2を採用し、スイッチとして優れた機能性や操作性を有しながら、シンプルでクリーンな室内空間を創出しています。手をかざすことで機能アイコンが点灯*2。アイコンは機能ごとにレイアウトされており、必要なスイッチを選びやすいよう考慮しました。静電タッチパネルのようにシンプルな見た目でありながら、しっかりとした押下感のあるスイッチを採用することで、押し間違いを防ぐようにデザインしています。

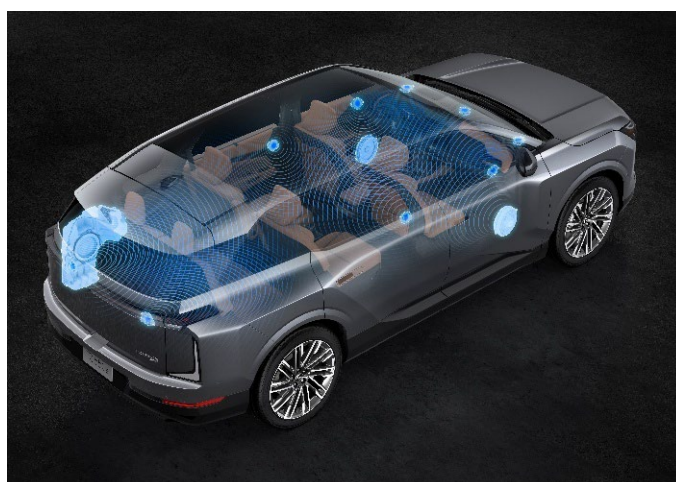


消灯時（走行中）イメージ
（プロトタイプ）



点灯時イメージ
（プロトタイプ）

- ・オーディオには Mark Levinson™ オーディオシステム*3を採用。21スピーカーの最適配置と音質チューニングにより、時を重ねた音楽ホールのような空間を作りあげました。車内という枠を意識させないほどの奥行きと包まれ感により、音が満ちていく自分だけの音響空間を実現しています。なお、通常の音場設定に加え、後席を重視した音場設定もお選びいただけます。また、助手席のおもてなしとしてダブルモニター*2を設定するなど、快適な装備を採用しています。



21スピーカー（プロトタイプ）

- ・空調装備では、新規構造の薄型センターレジスターにより、すっきりとした横基調のインストルメントパネル意匠と空調性能・静粛性を両立しました。また、サイドレジスターも意匠と一体化するとともに、操作ノブをレジスター開口部のそばに配置するなど、レジスターの存在感を最小限に抑えることで、シンプルでクリーンな室内空間をご提供します。加えて、直接乗員を温める輻射ヒーターをフロント席に装備。シートヒーターはサードシート含む全席に装備*²。乗員の快適性と空調消費電力の低減に寄与しています。



センターレジスター
(プロトタイプ)



サイドレジスター
(プロトタイプ)

- ・センターコンソールは上質さと機能性を両立した収納スペースを確保するとともに、コンソール下のスペースに大型ストレージを設定しました。また、リアコンソールには取り外し可能な蓋を設置。蓋の位置を変えることで、お客様の使い方に応じて上段・下段の2wayでの使用が可能です。加えてコンソール本体を取り外し可能としたことで、ウォークスルーを可能にしました。



センターコンソール (プロトタイプ)



リアコンソール (プロトタイプ)

*1 2026年5月現在発表済みの車種において、LEXUS調べ

*2 地域/仕様によって異なります

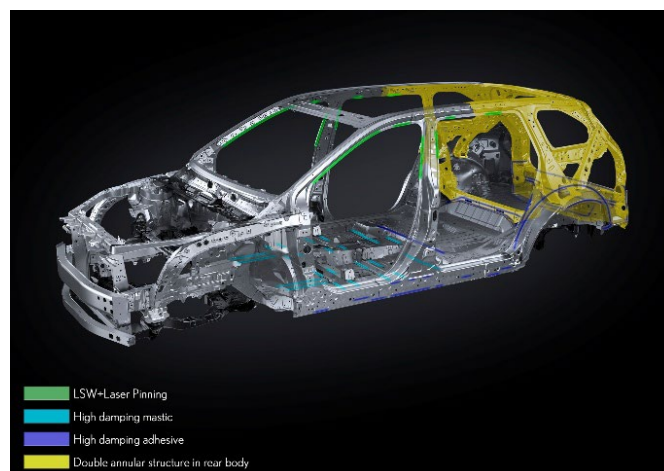
*3 マークレビンソン、Mark Levinson は、ハーマンインターナショナルインダストリーズ社の商標です

走る喜びとくつろぎの空間が共存する、LEXUS ならではの移動体験

TZ は、バッテリーEV (BEV) ならではの低重心・高剛性を活かし、走りの楽しさと快適な移動空間をご提供する3列シートSUVモデルです。単なる移動空間ではなく、走行中も停車中も、すべての乗員が心地良く過ごせる“ラウンジ空間”を目指し、開発コンセプトとして Driving Lounge を掲げ、家族の会話や笑顔が自然に生まれる空間を創造しました。LEXUS がこれまで培ってきた技術を惜しみなく採用し、サードシートでも大人二人が快適に過ごせる走行性能を実現しています。具体的には、高い静粛性の作り込みや高次元での車両姿勢制御による手の内感のある走りを実現するとともに、ドライブモード選択によりあらゆるシーンにふさわしい移動体験をご提供します。

<徹底的に鍛えた体幹と、走りの深化>

- ・LEXUS は TNGA プラットフォームにより基本性能の向上を図るとともに、LEXUS 独自の走りの味を作りあげるための取り組みを開始し、LEXUS 共通の乗り味「Lexus Driving Signature」をより明確にするための活動を続けてまいりました。この活動を「味磨き活動」と称し、LEXUS の共通の乗り味に必要な約 40 項目のテーマについて取り組んでまいりました。なかでも、クルマの体幹に直結するボディの土台作りは、RZ のフロントエンドへの織り込みから始まり、今日では LEXUS のほぼ全てのモデルに展開しています。そして、今回発表する TZ は、現時点でのボディの土台作りの全ての知見を織り込んだ集大成となるモデルです。フロントエンド・リヤエンド・フロア後・フロア前の4ヶ所全てを織り込み、ボディの土台を作り、体幹を鍛えることで、TZ の持ち味とする静粛性・快適性と融合し、しっとりした、一体感ある、新しい LEXUS の乗り味を実現しています。
- ・優れた操縦安定性と安定した乗り心地を両立すべく、ボディ剛性の強化にも取り組みました。アッパーボディには、高剛性接着剤や LSW (Laser Screw Welding) を採用。また、パノラマルーフのベースパネルとガラスの接着には高剛性ウレタン接着剤を採用し、サイドと後端には接着剤を2重塗りすることで、ボディのねじり剛性を高めました。アンダーボディでは、フロアに2種類の構造用接着剤を採用しました。それぞれの特性に応じて、主要骨格には高剛性接着剤を、乗員に近い部位には高減衰接着剤を塗布することで、優れた操縦安定性と質感の高い乗り心地を両立しました。また、ツインフードロック構造を採用することでステアリング操舵時の応答性をより高めるとともに、高速定常走行時のフード振動を低減するなど、操縦安定性とより高い静粛性にも寄与しています。



ボディ構造 (プロトタイプ・イメージ)

- ・剛性を確保しながら軽量化を実現するため、主要骨格部材に超高張力鋼板、ホットスタンプ材を最適配置するとともに、フードとバックドアにはアルミを採用しました。これにより、すっきりと奥深い走り、電力消費低減による優れた航続距離の確保を両立しています。



ボディ構造 剛性強化（プロトタイプ・イメージ）

- ・すべての乗員が笑顔になれる LEXUSらしい Driving Lounge を実現するため、TZ 専用のサスペンションを開発しました。フロントサスペンションはマクファーソンストラット式、リヤサスペンションにはマルチリンク式を採用。新開発のタイヤに合わせたサスペンションの適合を実施することで、前席・後席を問わず、長時間の乗車でも疲れを感じさせない快適な乗り心地を追求しました。また、Dynamic Rear Steering（DRS）*1を設定し、車速に応じて後輪を前輪と逆相／同相に最大 4 度転舵させることで、低速域では車両の取り回し性、低中速域では操舵応答性、高速域では優れた車両安定性を確保させ、走行シーンに合わせ優れた運動性能を実現しています。ボディの大きさを感じさせず、ドライバーの意のままに操れる手の内感のある走りをお楽しみいただけます。また、ショックアブソーバーは減衰力の応答性を高める摺動部を採用。ロッドガイドブッシュ、ピストンバンド形状、オイルの材質・配合を改良し、極微低速域でのアブソーバーの摩擦力を最適化。フラットな乗り心地かつ高いライントレース性を実現しています。



フロントサスペンション（プロトタイプ）



リヤサスペンション（プロトタイプ）

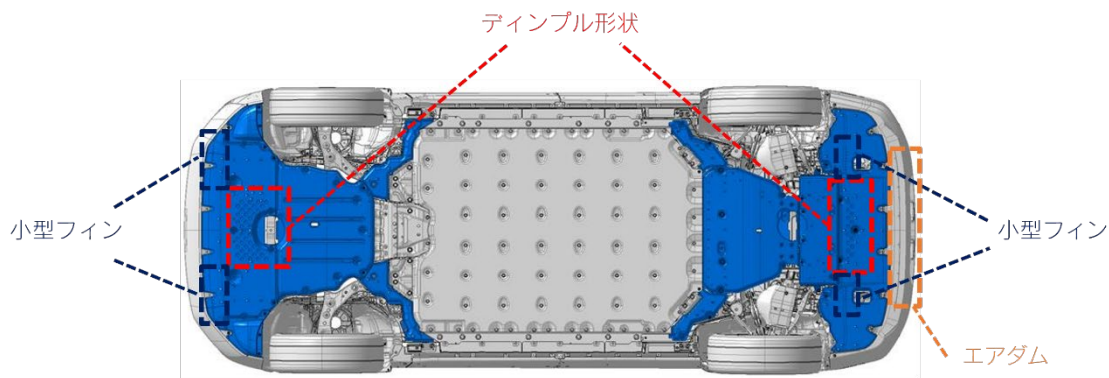
- ・ 20 インチ／22 インチ*¹の低転がり抵抗の大径タイヤを新開発しました。20 インチタイヤは低転がり抵抗と乗り心地の質感や高い静粛性の両立にこだわり開発。22 インチタイヤは乗り心地の質感や高い静粛性にもこだわりながら、低扁平タイヤに相応しい剛性感と限界性能を確保しています。低転がり抵抗は乗り心地や静粛性と相反しますが、試作や評価を繰り返し、各性能を高次元でバランス良く実現しました。
- ・ 22 インチホイールにはノイズリダクションホイールを採用。アウターリム部を中空化することでタイヤの空洞共鳴音を低減するとともに、中空化による軽量化も図っています。
- ・ LEXUS ならではの走りの味「Lexus Driving Signature」を進化させるブレーキフィーリングを目指し、前後独立油圧制御による前後回生協調が可能な電子ブレーキ制御システムを採用することで、より自然で扱いやすいブレーキフィーリングを実現しました。また、加圧ユニットを使った前後独立の油圧制御により、ドライバーのブレーキ操作量に応じて前後輪の制動力配分を最適化するブレーキ車両姿勢制御を採用。ブレーキ時に前後のタイヤに発生する力を最適に利用し車両姿勢を制御、ブレーキ抜き側のコントロール性にもこだわり、減速から旋回においてシームレスに繋がる気持ち良さや高い安心感のある走りに貢献しています。また、フロントブレーキには対向6ピストンブレーキキャリパー*¹を採用し、よりリニアでダイレクト感のあるブレーキフィーリングを実現しています。
- ・ クルマの素性にこだわり、意匠開発段階から空力モックや CFD（Computational Fluid Dynamics）*²による解析を繰り返すことで、意匠性と空力性能を両立するボディ形状を実現しました。具体的には、フロントの角や丸みの形状を細かく調整し、風が車体に沿ってスムーズに流れる設計としました。これにより、風が途中で剥離することなくきれいに車体表面を流れていきます。車体側面においては、空気抵抗の少ないドアミラー形状としたほか、ドアハンドルやガラスとウェザーストリップのわずかな段差までフラッシュサーフェス化することで空気抵抗を低減しました。また、床下はフルアンダーカバー採用により空気抵抗を低減するとともに小さな凹凸（ディンプル）やフィン、エアダムを配置。ディンプルの形状や小型フィンの位置・本数・高さにもこだわり、車体下の空気の流れを制御することで、優れた操縦安定性と空気抵抗低減を両立しています。さらに、足回りにおいては、ブレーキの冷却性能を確保しながらもホイール側面の開口を最小化し、走行時の乱流を抑制することで空気抵抗を低減します。このような空力性能の作り込みにより、運動性能の向上に加え、Cd 値 0.27*³を実現し、より長い航続可能距離の確保にも寄与しています。



空力性能（プロトタイプ・イメージ）



空力性能 フラッシュサーフェス
（プロトタイプ）



床下空力部品配置（プロトタイプ・イメージ）

< BEV ならではの車両制御と快適性 >

- ・ 95.82kWh^{*1}の大容量リチウムイオンバッテリーと高出力モーター（フロント 167kW^{*3}・リヤ 167kW^{*1*3}）を搭載し、高い動力性能を確保しながら航続距離約 300mile^{*1} を目標に開発を進めています。前後に高出力モーターを採用することで、緻密な前後駆動制御による走りの良さや快適な乗り心地に貢献しています。また、地域仕様に応じた充電スピードの向上や V2H (Vehicle to Home) への対応により、利便性を大幅に進化させています。
- ・ 進化した四輪駆動カシステム「DIRECT4」^{*4}による走行状況やドライブモードに合わせた前後モーター駆動力の最適な配分により、リニアでレスポンスの良い走りと、高いコーナリング性能を実現しています。具体的には、発進時・直進加速時は、車両のピッチングを抑え、ダイレクトな加速感が得られるように、前輪:後輪＝60:40～0:100 程度で制御します。コーナリング時には車速、舵角などの情報を用いて、走行状態に合わせて駆動力配分を 80:20～0:100 で最適に制御。ターンインでは、クルマがすっきりと曲がっていけるようフロント寄りの駆動力へ配分。コーナー脱出時は車両挙動の乱れが無く加速できるよう、各輪の接地荷重に応じたトルク配分制御とすることで、気持ちの良い旋回フィーリングや狙い通りのライントレースを実現しています。
- ・ 各種ドライブモード（NORMAL モード、SPORT モード、ECO モード、RANGE モード、REAR COMFORT モード）^{*1}に応じて運動制御のセッティングを変更しました。今回 3 列シート SUV モデルとして特にこだわった後席の快適性を重視した走行モード「REAR COMFORT モード」では、「ドライバーが気を遣わずに同乗者が快適に過ごせる走り」を目指しています。Dynamic Rear Steering (DRS) によるレーンチェンジ時やカーブでの横揺れ制振制御に加え、AHB-G ブレーキシステムを活用した前後制動力最適制御によるブレーキ時ノーズダイブ抑制、前後高出力モーターを活用した駆動力配分制御による加速時のピッチング姿勢抑制制御。この 3 つを組み合わせ、ドライバーの操作に対して車両をゆったりと動かすことで、車両が揺すられにくい穏やかな挙動や、高速域での安定感を実現しています。また、ドライバーの操作に対する応答自体は穏やかでありながら、ドライバーは車両の挙動や姿勢が把握できる自然な走りを実現しています。
- ・ 自然な走行リズムを作るために、モーターの回生力を強化し、惰行時の減速 G を高めました。また、パドルシフトの採用により、回生による惰行減速度を 5 段階選択可能とし、アクセルペダルによる加減速コントロールの幅を広げることで、ブレーキペダルへの踏み替え頻度低減による運転負荷軽減を実現しました。スポーツモードではスポーティな走行での走りやすさを向上させるため、D レンジの減速度をノーマル/エコモードよりも 1 段強い減速度としています。

- ・アクセルオフ時の最大惰行減速度を 0.2G まで高めました。実走行の大半のシーンで、アクセルペダルだけで車速をコントロールできるようになり、ブレーキペダルへの踏み替え頻度を低減し、運転負荷軽減に貢献しました。また、最大惰行減速度を 0.2G まで高めつつ、車速と減速度に関する走行データを踏まえ、車速低下に合わせて減速度を緩め、クリープに滑らかに繋げる設計としています。ワインディング路や、減速→停車シーンにおける追加ブレーキ操作との組み合わせでも繋がりが良く、操作性と快適性を確保しています。

< 操る楽しさと高揚感をもたらす、深化したクルマとの対話 >

- ・運転の楽しさを際立たせる「インタラクティブマニュアルドライブ (Interactive Manual Drive) *1」を採用しました。8 速の仮想有段ギヤをパドルシフト (スイッチ) で選択し、マニュアルトランスミッションを操作しているような感覚で駆動力を制御します。また、LEXUS を象徴する V10 エンジンのサウンド*1を取り入れるとともに、視覚的にシフトアップ/ダウンが判断できるシフトガイドメーターの採用や、変速に応じたシフトショックの再現で、走行中のクルマの状態をドライバーへ伝えます。これにより運転の高揚感を高めるとともに、クルマの状態をアクセル操作に対するレスポンスや聴覚・視覚から把握でき、より深くクルマとの対話を楽しみながら運転することができます。



インタラクティブマニュアルドライブ(Interactive Manual Drive) *1

- ・コックピットは、開放感のある視界確保と手の内感のある走りを追求した作り込みを行いました。メーターフードを取り払い、インストルメントパネル上面を低く抑えた水平基調のデザインとすることで、ドライバーの広い視界を確保しました。また、メーターには偏光フィルムを採用することで、メーター画面の窓への反射や、日差しによる反射を防いだほか、カラーヘッドアップディスプレイは、従来の「立面表示」から遠近感を活かした「斜め表示」へと変更したことで、走行時の情報の優れた視認性を確保しています。さらにフード中央の形状を落とし込むことで、前方視界の確保に寄与するとともに、車両の姿勢変化を把握しやすくしています。加えてコーナー進入時の視点を考慮した A ピラー形状や着座位置を最適化した新開発シートの採用など合わせ、より開放感のある視界と手の内感のある運転体験をご提供します。



コックピット(プロトタイプ)

- ・クルマの加速や減速に応じて音響を演出する ASC (Active Sound Control) を採用するとともに、LEXUS ならではの BEV サウンドを新開発しました。新開発したサウンドは、人間の感性に着目し、より心地良い音でクルマの操作や走行状態を把握することを狙っています。和音の響きを重視する音楽的要素の考え方を新たに取り入れ、ドライバーのアクセル操作に応じて力強さ・躍動感・収束感を表現する異なる音楽のコードを順に繋げていくことで、走行状況に応じてハーモニクスが綺麗に繋がっていくサウンドを表現しました。

<充電・給電性能の拡充>

- ・充電リッドには、片側に AC・DC を並列配置した 2in1 の電動開閉式充電リッド*1 を LEXUS として初採用*5 しました。4 リンク式のヒンジ構造の採用により、省スペースかつスムーズなスライド開閉を実現。駐車場や自宅のガレージなど限られたスペースでも安心して充電いただけます。



左側電動開閉式充電リッド*1 (プロトタイプ)

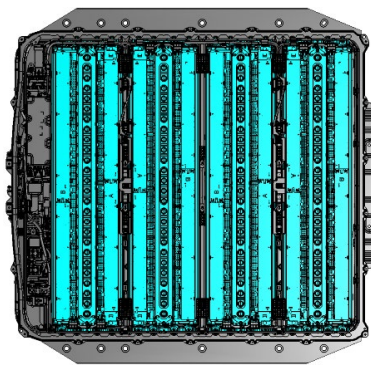
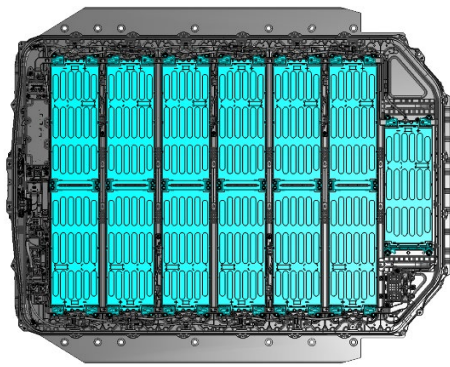
- ・米充電規格 (NACS) ポートを搭載し、米国内の数千カ所にも及ぶ DC 急速充電ステーションを幅広く利用可能いただけます。

- ・フロントグリルには、BEV シグネチャー表現として、発光エンブレム*¹を採用しています。点灯／非点灯時の見栄えを統一するため、L 字マーク内がボディカラー同色のエンブレムを LEXUS として初採用*⁵しました。



発光エンブレム*¹（プロトタイプ）

- ・駆動用バッテリーは多様なニーズに応えるため2種類の電池を用意しています。ロングレンジ仕様では LEXUS 初採用となる 312 セル電池パックを導入することで、より長い航続距離の確保に寄与しています。

	スタンダードレンジバッテリー	ロングレンジバッテリー（新開発）
電池パック		
電池種類	リチウムイオン電池	
セル数	104 セル	312 セル
総電力量	76.96kWh	95.82kWh

(1) 電池プレコンディショニング機能

低温環境下においては、新たに搭載された「電池プレコンディショニング機能」により、充電開始前からあらかじめ電池温度を最適な状態に調整することで、充電所要時間の短縮を図りました。

① 走行中プレコンディショニングシステム

充電スタンドを目的地にナビ設定することで、充電開始時の電池温度を最適な状態にすることが可能です。また、マルチメディア画面より、お客様のマニュアル操作でプレコンディショニング起動することも可能です。

② 出発時プレコンディショニングシステム

出発時間を考慮し、タイマーでプレコンディショニング起動を設定できます。

③ 最適充電（オート）機能

従来のタイマー充電（マニュアル）での充電開始時間の設定に加え、お客様毎の充電・走行パターンを学習し、ライフスタイルに合わせたおすすめタイマー充電設定・充電量設定を表示し、簡単な操作で適応可能な機能を追加しました。

(2) AC 外部給電機能

AC 外部給電機能として、普通充電インレットに専用変換アダプタ（VPC*⁶）を取り付け、外部給電開始操作を行うことで、電気製品*⁷を使用することができる機能を実装しました。

*1 地域／仕様によって異なります

*2 Computational Fluid Dynamics（計算流体力学）

*3 LEXUS 調べ・開発目標値

*4 「DIRECT4」はトヨタ自動車(株)の登録商標です

*5 2026年5月現在発表済みの車種において

*6 Vehicle Power Connector

*7 使用可能な電化製品は、各国によって異なります。

日本：AC100V で消費電力の合計約15kW 以下

北米：AC120V で消費電力の合計約2.8kW 以下またはAC240V で消費電力の合計約7.2kW 以下

中国：AC220V で消費電力の合計約3.5kW 以下

造形美と空力性能の二律双生が生む存在感

TZ では、開発コンセプト Driving Lounge をデザインとして具現化しました。LEXUS 共通のデザイン哲学「Provocative Simplicity」に基づきシンプルかつ先鋭的な造形としながら、意匠性と機能を二律双生させています。エクステリアデザインにおいては、スピンドルボディをシンプルなひと塊で構成し、建築デザインのような幾何学グラフィックを採用することで、LEXUSらしい切れ味と力強さを表現。さらに Cd 値 0.27 を実現するなど、空力性能にも寄与しています。

<空力性能の追求と機能美が調和するデザイン>

- ・サイドは、3列シート SUV に相応しい伸びやかなシルエットとしました。低重心かつロングホイールベースの新開発プラットフォームにより、高い空力性能とゆとりある室内空間を両立。また、シャープなエッジと高い質感の面構成により、躍動感と力強さを際立たせています。加えて、空気抵抗が少なく軽量のセミフラッシュタイプ型のアウトサイドドアハンドルを採用しました。



LEXUSTZ (プロトタイプ)

- ・フロントは、スピンドルボディをシンプルなひと塊で構成し、建築デザインのような幾何学グラフィックを採用することで、車格感のある堂々とした佇まいを実現。内向きのL字デイタイムランニングランプと外向きのL字ターンランプを組み合わせた「ツインLシグネチャーランプ」を採用し、先進性と水平基調配置による SUV としての力強さを表現しています。また、スピンドル形状を強調する黒色オーナメント内に、カメラやクリアランスソナーなどの機能部品を配置することで、各機能の存在感を抑え、統一感と精緻さを追求しました。さらに発光エンブレムを装備し、昼夜を問わず高い視認性とブランドの象徴性を演出しています。



LEXUSTZ (プロトタイプ)

- ・リヤは、快適な室内空間を確保しつつ、空力性能を追求するためにルーフ後端を大胆に下げています。後方でキャビンを中心に絞り込み、張り出したフェンダーを造形することで水平基調によるワイド感を強調し、SUVとしての力強いスタンスを表現。また、最適な風流れを実現するバンパー平面と、張りのあるバックドア立体の狭間に「リヤLシグネチャーランプ」を配置し、一目でLEXUSと認識できるデザインとしています。



LEXUSTZ (プロトタイプ)

- ・ホイールデザインにおいても、意匠性と空力性能の二律双生を目指し、細部にまで徹底的にこだわりました。20インチ・22インチホイール*¹には、見ごたえあるマルチスポーク意匠と空力性能の両立を実現する樹脂カバー付エアロホイールを設定。22インチホイール*¹には、造形美を徹底追求したスポークのアルミホイールを採用しました。



20インチエアロホイール
(プロトタイプ)



22インチエアロホイール
(プロトタイプ)



22インチアルミホイール
(プロトタイプ)

- ・外形の連続性を意識した造形と、BEVらしい整然としたシンプルなお見栄えを実現するため、モーターコンパートメントカバーを全車採用しました。



モーターコンパートメントカバー (プロトタイプ)

<モダンな選択肢を広げるカラーデザイン>

- ・ボディカラーには、新開発色の「SONIC TELLUS（ソニックテラス）」*1を含む全11色*1を設定。SONIC TELLUSは、母なる大地の力強さと美しさを、ほのかに色味を感じる彩度と立体を際立てる強い陰影感で表現した、BEVらしいモダンさと自然との調和を感じさせるカラーです。カラーバリエーションのなかにはルーフバイトーンも設定し、幅広い選択肢をご提供してまいります。



ボディカラー「SONIC TELLUS（ソニックテラス）*1」（プロトタイプ）

- ・インテリアカラーには、ホワイトアッシュ、モーヴ、グレースケールの全3色*1を設定。上質で温かみのあるカラーと質感がシンプルでクリーンな造形を引き立てます。

<インテリアカラー概要>

- ホワイトアッシュ

モダンですっきりとした明るいグレーで、上質で開放感のある空間を表現

- モーヴ

洗練されたミディアムカラーで、華やかさと落ち着きを両立

- グレースケール

モノトーンの濃淡で、シンプルながらもスタイリッシュな世界感を表現



ホワイトアッシュ
（プロトタイプ）



モーヴ
（プロトタイプ）



グレースケール
（プロトタイプ）

*1 地域／仕様によって異なります

サステナブルな素材と循環型のクルマ作り

LEXUS は、CO₂ 排出量の削減だけでなく、地域課題の解決や伝統技術の継承など、社会性のある活動を推進する独自のアプローチに取り組んでいます。TZ でも、素材選定から設計思想まで徹底的にこだわりました。オーナメント加飾には樹脂に粉碎した竹繊維を混ぜ込んだ Forged bamboo を、ルーフレールにはリサイクルアルミを採用しています。加えて、シートの一部に接着剤を使わずに組み付け可能な構造の採用や、再生可能エネルギーの活用など、素材の選定だけでなく、製造工程においても環境負荷を最小限に抑える工夫を凝らしています。LEXUS は、今後も未来に向けた責任あるクルマ作りを推進してまいります。

- ・オーナメント加飾では、インストルメントパネルおよびドアトリムの一部に Forged bamboo と「Bamboo mono-material film」*¹を採用。また、車両だけでなくスマートキーにも Forged bamboo を活用*¹することで、LEXUS の世界観のさらなる広がりを表現しました。Forged bamboo には、四国の竹材を用いており、竹繊維が織りなす唯一無二の表情が、TZ のクリーンな造形と合わさることで、自然との繋がり・温かみを感じるモダンな空間を演出します。Bamboo mono-material film では、フィルムと基材の双方にポリプロピレンを採用。リサイクルのし易さを向上させる、新しいオーナメント加飾です。サーキュラーエコノミー（循環経済）の上でも貢献が期待できるという竹材の活用により、地域経済や社会への貢献を推進してまいります。



オーナメント加飾
Bamboo mono-material film*¹
(プロトタイプ)



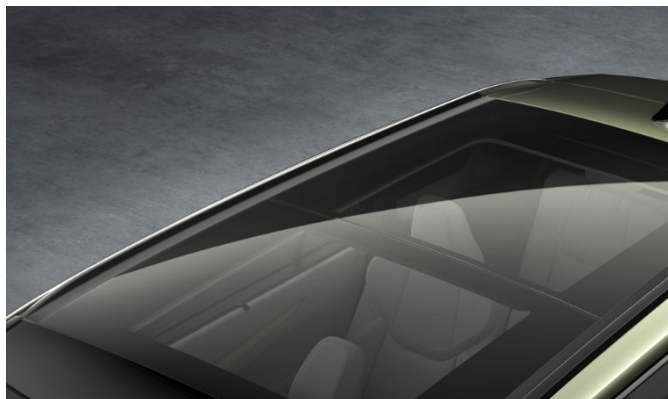
オーナメント加飾
Forged bamboo
(プロトタイプ)



スマートキー
Forged bamboo*¹
(プロトタイプ)

- ・インストルメントパネルやシートアクセント、ドアショルダーには、植物由来原料を含有した「高触感バイオウルTRASエード™*²」を採用しました。細部にまでサステナビリティ製品を積極的に採用することで、自然との共生とブランドの持続的成長を目指します。
- ・アルミのスクラップ材から生成されるリサイクルアルミ*¹をルーフレールやトノカバーなどに採用しました。リサイクルアルミは従来の製造工程よりも少ない電気エネルギーで製造することができ、CO₂削減に貢献します。

- ・デザイン性、使用性に優れたアルミルーフレールを採用しました。お客様の用途に応じてアクセサリを取り付けることが可能です。細幅化することですっきりとした見栄えや空気抵抗の軽減を図るとともに、リサイクルアルミ素材を用いることで環境負荷の低減にも寄与しています。



アルミルーフレール（プロトタイプ）

*1 地域／仕様によって異なります

*2 Ultrasuede®およびウルトラスエード®は東レ株式会社の登録商標です

<先進予防安全技術 Lexus Safety System +>

LEXUS はモビリティ社会の究極の願い「交通事故ゼロ」を掲げ、安全技術開発を進めています。世界トップレベルの先進安全技術をより早く開発し、より多くのクルマに普及させていくことが重要という考えのもと、TZ では最新の Lexus Safety System +を採用。より広く、より遠くまで対象物を認識できるように進化し、対応事故シーンを拡大します。また、一般道等、複雑な環境でも継続的な支援をご提供できるよう、機能・センサーの利用可能範囲を拡大することで安心感と利便性を向上し、運転負荷の低減に貢献します。さらに、これらの進化に応じて、車両周辺の情報をより分かりやすくメーターディスプレイに表示することで、お客様の安全・安心なドライブにより一層貢献します。

▽主な性能向上機能

- ・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）は、先行車減速シーンや、自車前方への割り込みシーンでの減速早期化により安心感を向上し、高速道路走行時の運転をより快適にします。さらに、エコランモードと、地図連携機能*1を新たに追加しました。エコランモードは、加速をより緩やかにし、燃費を重視した穏やかな追従走行を行うことで、レーダークルーズコントロール走行中の燃費向上に貢献します。地図情報と連携した機能では、従来の減速支援に加え、一時停止などの道路標識、丁字路、ラウンドアバウト、料金所などに対する減速をサポートします。カーブ手前の減速でも、地図情報の活用によりその性能をより向上し、道路形状に合わせて減速をサポートすることで、安全・安心な運転に貢献します。
- ・レーンチェンジアシスト [LCA*2] *3は、起動操作や車線変更の速さを見直し、より簡単でスムーズな車線変更を支援します。さらに、作動車速を拡大し、より幅広いシーンで支援を可能とするほか、ドライバーの操作と協調したハンドル支援を行うことで、さらなるお客様の安全・安心な運転に貢献します。
- ・プリクラッシュセーフティ [PCS*4] は、交差点での出会い頭のシーンにおいて、警報およびブレーキの作動車速を広げることで、これまでよりも広い車速域で衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に貢献します。
- ・ドライバーモニター*1では、カメラを用いてドライバーの視線や顔向きなどの状態を観察し、新たに眠気の兆候を検知した場合にも、ドライバーへ注意喚起を行うことでお客様の運転をサポートします。
- ・ドライバー異常時対応システム*5は、従来の機能に加え、高速道路及び自動車専用道を走行中に動作した際に路肩に寄せて停車する機能*1を追加します。
- ・アダプティブハイビームシステム [AHS*6] を採用。細やかなハイビーム制御により、夜間の優れた視認性に貢献しています。

<先進装備による安全・快適の追求>

- ・ ブラインドスポットモニター [BSM*7] は、従来の機能に加え、自車の側方を走行している自転車、バイクを検知し、注意喚起を行うことで、右左折時の巻き込み事故防止を支援します。
- ・ パノラミックビューモニターは、新開発の3Dビューにより、ドライバーの周辺確認をサポートします。画面のスイープ操作により、ドライバーの好きな視点から周囲を見ることができます*8。クルマを透かした状態で視点を移動できるようにすることで、全周囲を確認しやすくしました。

*1 地域/仕様によって異なります

*2 LCA=Lane Change Assist

*3 高速道路や自動車専用道路（一部を除く）を走行時、レーントレーシングアシスト [LTA=Lane Tracing Assist] 制御中に作動

*4 PCS=Pre-Collision System

*5 レーントレーシングアシスト [LTA] 制御中に作動

*6 AHS=Adaptive High-beam System

*7 BSM=Blind Spot Monitor

*8 シフト P ポジションで動作

以上